

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 溪仁会	代表者	理事長 谷内 好	法人・ 事業所 の特徴	グループは北海道内に多くの施設、病院を有しております。特に西円山ブロックの併設や病院とは密な連携が図れています。「その人が望む生活を続けられるよう、出来る事に目を向けたケアを目指します」の理念のもと、ご利用者様が住み馴れた自宅で、充実した生活を送る事が出来るよう、日常の支援や、行事など様々な取り組みを同事業所で提供しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 西円山の丘	管理者	林谷 康史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	1人	0人	0人	1人	1人	2人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域内での自施設の認知度が少ない為、普段から地域行事への参加を行いながら、地域との関係を構築する。	コロナが空けて、少しずつ地域行事に参加出来てきているように感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・小多機として出来る事をもっと宣伝したほうが良いのでは。 ・病院や併設の施設との違いを示す必要がある。 ・自分たちに何が出来るのか、何を望まれているのかをピックアップしたほうが良いのでは。 ・地域活動に参加する事で何かあった時に話しやすい環境（顔見知りであること）が重要。 	地域行事等への参加を継続し、地域住民へ事業所の理解を深める。職員へも、地域への活動の必要性和理解が図れるように、教育を行っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	見学会や交流会の企画を実施し、足を運んでもらう機会を作っていく。地域に向けてオープンな場としての情報発信を行う。	見学はいつでも受け入れしている。地域に向けた見学会や交流会の実施には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・立地条件にて、気軽に来る環境が難しい。 ・項目 A と同様、地域に向けての自施設の存在や小多機としてアピール活動が必要。 	事業所の認知をしてもらう為、地域に根差していけるよう、行事、イベントへ参加する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域に向けた広報誌やホームページ等にて事業所の情報発信を行う。	ホームページは開設しているが、地域への発信としての運用には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設と病院がある事は認識あるも、施設ごとの違いは会議に参加することで理解した。 ・項目 A、B と同様、地域に向けての自施設の存在や小多機としてアピール活動が必要。 	地域に対して、事業所理解を深めて頂く為の交流方法を検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事に、利用者、職員が参加していく。必要時は、利用者がお住まいの場所で開催の会議にも出席する。	利用者を支える様に、ケアマネを中心に、住宅の業者や往診、薬局等と連絡調整は行っている。地域会議は開催なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が住んでいる地域への活動について、必ずしも全員に必要ではなく、必要性がある方（独り暮らし・認知症）を見極め、事例の積み重ねが必要では。 	利用者理解を深め、職員間でも情報の共有。必要時には参加していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	管理者、介護支援専門員以外のスタッフの会議参加を行う。町内会長の参加に加えて民生委員の方へ会議への参加をお願いする。	運営推進会議のメンバーに、町内会の事務局長が参加頂く事となった。スタッフの会議参加には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの参加が重要ではなく、会議の内容を正確にスタッフに伝える事が重要では。 ・地域の高齢者の把握は民生委員が把握している。 	会議内容の、職員周知方法と意見の吸い上げを行う。民生委員の運営推進会議への参加検討
F. 事業所の防災・災害対策	町内会との相互参加を検討し、併設施設と合同で実施する。	防災、災害対策の合同実施には至っていない。又、事業所の防災計画についても、未周知である。	町内会としてもまだ防災計画、訓練を行えていないので、体制を整える事が先。	相互の現状の防災体制を確立し、まずは共有していく。